

## 6 鳥取県感染症発生動向調査情報 月報（抜粋）

（鳥取県感染症対策協議会情報解析部会）

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年2月16日(金)  
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

## 令和6年第1週から第4週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(1週～4週) (R6.1.1～R6.1.28)	前回(49週～52週)4週 (R5.12.4～R5.12.31)	前々回(45週～48週)4週 (R5.11.6～R5.12.3)
1 インフルエンザ(1,285) [↓1,361]	1 インフルエンザ (2,646)	1 インフルエンザ (3,509)
2 新型コロナウイルス感染症(1,177) [↑647]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (714)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (658)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(503) [↓211]	3 新型コロナウイルス感染症 (530)	3 感染性胃腸炎 (279)
4 感染性胃腸炎 (364) [↑87]	4 感染性胃腸炎 (277)	4 新型コロナウイルス感染症 (243)
5 咽頭結膜熱 (43) [↓38]	5 咽頭結膜熱 (81)	5 手足口病 (75)
6 その他 (34) [↓18]	6 その他 (52)	6 その他 (87)
(合計 3,406)	(合計 4,300)	(合計 4,851)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は3,406件であり、21%(894件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
新型コロナウイルス感染症	122%	インフルエンザ	51%
感染性胃腸炎	31%	咽頭結膜熱	47%
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30%

### 3 コメント

- インフルエンザは1月24日に警報解除となった後、再度、患者報告数が増加し、2月14日に今シーズン2回目となるインフルエンザ注意報が発令されました。シーズン始めはA型が多く確認されていましたが、1月下旬以降B型による集団感染事例が複数報告されており、今後のさらなる感染拡大に注意が必要です。  
新型コロナウイルス感染症は、12月下旬以降10代以下を中心に顕著に増加しており、引き続き感染の拡大に注意が必要です。いずれも、手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。  
また、新型コロナウイルス感染症についてはワクチン接種の検討もお願いします。  
咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- 県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が増加しています。集団感染事例も確認されており、トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などには、手洗いを徹底しましょう。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年3月15日(金)  
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

## 令和6年第5週から第9週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(5週～9週)5週 (R6.1.29～R6.3.3)	前回(52週～4週)5週 (R5.12.25～R6.1.28)	前々回(47週～51週)5週 (R5.11.20～R5.12.24)
1 新型コロナウイルス感染症(1,572) [↑192]	1 インフルエンザ (1,790)	1 インフルエンザ (4,199)
2 インフルエンザ (1,334) [↓456]	2 新型コロナウイルス感染症 (1,380)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (950)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(834) [↑186]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (648)	3 新型コロナウイルス感染症 (468)
4 感染性胃腸炎 (714) [↑297]	4 感染性胃腸炎 (417)	4 感染性胃腸炎 (350)
5 咽頭結膜熱 (106) [↑35]	5 咽頭結膜熱 (71)	5 咽頭結膜熱 (80)
6 その他 (78) [↑31]	6 その他 (47)	6 その他 (84)
(合計 4,638)	(合計 4,353)	(合計 6,131)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は4,638件であり、7%(285件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
感染性胃腸炎	71%	インフルエンザ	25%
咽頭結膜熱	49%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	29%		
新型コロナウイルス感染症	14%		

### 3 コメント

- ・インフルエンザは今シーズン3回目となるインフルエンザ注意報が3月13日に発令されました。シーズン始めはA型が多く確認されていましたが、1月下旬以降B型による集団感染事例が複数報告されており、今後の感染動向に注意が必要です。  
新型コロナウイルス感染症は、感染のピークを越えたとみられるものの、感染力に変わりはないため、引き続き注意が必要です。  
いずれも、手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。  
咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ・県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- ・ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が増加しています。集団感染事例も確認されており、トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などには、手洗いを徹底しましょう。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年4月19日(金)  
 感染症対策センター  
 (衛生環境研究所)

## 令和6年第10週から第13週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(10週～13週)4週 (R6.3.4～R6.3.31)	前回(6週～9週)4週 (R6.2.5～R6.3.3)	前々回(2週～5週)4週 (R6.1.8～R6.2.4)
1 インフルエンザ (1,549) [↑482]	1 新型コロナウイルス感染症 (1,222)	1 新型コロナウイルス感染症 (1,267)
2 新型コロナウイルス感染症 (785) [↓437]	2 インフルエンザ (1,067)	2 インフルエンザ (1,144)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (515) [↓116]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (631)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (662)
4 感染性胃腸炎 (480) [↓93]	4 感染性胃腸炎 (573)	4 感染性胃腸炎 (472)
5 咽頭結膜熱 (90) [↓3]	5 咽頭結膜熱 (93)	5 咽頭結膜熱 (50)
6 その他 (44) [↓20]	6 その他 (64)	6 その他 (48)
(合計 3,463)	(合計 3,650)	(合計 3,643)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は3,463件であり、5%(187件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	45%	新型コロナウイルス感染症	36%
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	18%
		感染性胃腸炎	16%
		咽頭結膜熱	3%

### 3 コメント

- インフルエンザは、1月下旬以降B型の流行が見られ、3月13日に今シーズン3回目となるインフルエンザ注意報が発令されましたが、4月以降は減少し、4月17日に注意報は解除されました。また、新型コロナウイルス感染症は、2月中旬をピークに減少傾向が続いていますが、感染力に変わりはないため、引き続き注意が必要です。いずれも、手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- 県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が多い状況が続いており、集団感染事例も確認されています。トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などには、手洗いを徹底しましょう。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年6月6日(木)  
感染症対策センター  
(衛生環境研究所)

## 令和6年第14週から第17週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(14週～17週)4週 (R6.4.1～R6.4.28)	前回(10週～13週)4週 (R6.3.4～R6.3.31)	前々回(6週～9週)4週 (R6.2.5～R6.3.3)
1 インフルエンザ (543) [↓1,006]	1 インフルエンザ (1,549)	1 新型コロナウイルス感染症(1,222)
2 新型コロナウイルス感染症 (468) [↓317]	2 新型コロナウイルス感染症 (785)	2 インフルエンザ (1,067)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (466) [↓49]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (515)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (631)
4 感染性胃腸炎 (440) [↓40]	4 感染性胃腸炎 (480)	4 感染性胃腸炎 (573)
5 咽頭結膜熱 (77) [↓13]	5 咽頭結膜熱 (90)	5 咽頭結膜熱 (93)
6 その他 (53) [↑9]	6 その他 (44)	6 その他 (64)
(合計 2,047)	(合計 3,463)	(合計 3,650)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は2,047件であり、41%(1,416件)の減となった。

減少した疾病	
インフルエンザ	65%
新型コロナウイルス感染症	40%
咽頭結膜熱	14%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10%
感染性胃腸炎	8%

### 3 コメント

- ・インフルエンザは、4月17日に注意報は解除され、5月の中旬には流行期の目安を下回りました。また、新型コロナウイルス感染症は、2月中旬をピークに減少傾向ですが、依然として一定数の患者報告が続き、集団感染事例も散発している状況です。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。  
咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ・県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- ・ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が多い状況が続いており、集団感染事例も確認されています。トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などには、手洗いを徹底しましょう。
- ・咽頭結膜熱が中部地区で増加しており、注意が必要です。原因となるアデノウイルスはアルコールが効きにくいいため、石けんと流水でのこまめな手洗いやタオルの共用を避けるなどの感染予防をお願いします。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年7月1日(月)  
感染症対策センター  
(衛生環境研究所)

## 令和6年第18週から第22週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(18週～22週)5週 (R6.4.29～R6.6.2)	前回(13週～17週)5週 (R6.3.25～R6.4.28)	前々回(8週～12週)5週 (R6.2.19～R6.3.24)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(901)[↑329]	1 インフルエンザ(1,021)	1 インフルエンザ(1,520)
2 感染性胃腸炎(513)[↓13]	2 新型コロナウイルス感染症(616)	2 新型コロナウイルス感染症(1,133)
3 新型コロナウイルス感染症(429)[↓187]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(572)	3 感染性胃腸炎(680)
4 咽頭結膜熱(162)[↑63]	4 感染性胃腸炎(526)	4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(678)
5 RSウイルス感染症(107)[↑92]	5 咽頭結膜熱(99)	5 咽頭結膜熱(110)
6 その他(205)[↑142]	6 その他(63)	6 その他(65)
(合計 2,317)	(合計 2,897)	(合計 4,186)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は2,317件であり、20%(580件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
手足口病	1,667%	インフルエンザ	94%
RSウイルス感染症	613%	新型コロナウイルス感染症	30%
咽頭結膜熱	64%	感染性胃腸炎	2%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	58%		

### 3 コメント

- ・県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。  
また、まれに同じA群溶血性レンサ球菌等の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合がありますため、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。
- ・咽頭結膜熱が全県で増加傾向となっており、注意が必要です。原因となるアデノウイルスはアルコールが効きにくいいため、石けんと流水でのこまめな手洗いやタオルの共用を避けるなどの感染予防をお願いします。
- ・RSウイルス感染症は増加傾向であり、注意が必要です。子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤などで消毒し、手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- ・新型コロナウイルス感染症は、依然として一定数の患者報告が続き、集団感染事例も散発している状況です。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ・ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が多い状況が続いており、集団感染事例も確認されています。トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などには、手洗いを徹底しましょう。

- 腸管出血性大腸菌感染症が5月に5例発生しています。食品の加熱は十分に行い、調理、食事の前などには、手洗いを徹底しましょう。
- 今年度初めて、東部地区において日本紅斑熱が確認されています。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年7月23日(火)  
感染症対策センター  
(衛生環境研究所)

## 令和6年第23週から第26週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(23週～26週)4週 (R6.6.3～R6.6.30)	前回(19週～22週)4週 (R6.5.6～R6.6.2)	前々回(15週～18週)4週 (R6.4.8～R6.5.5)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(567)[↓233]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(800)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(487)
2 感染性胃腸炎(326)[↓107]	2 感染性胃腸炎(433)	2 新型コロナウイルス感染症(427)
3 新型コロナウイルス感染症(315)[↓27]	3 新型コロナウイルス感染症(342)	3 感染性胃腸炎(413)
4 RSウイルス感染症(174)[↑76]	4 咽頭結膜熱(137)	4 インフルエンザ(284)
5 手足口病(138)[↑89]	5 RSウイルス感染症(98)	5 咽頭結膜熱(89)
6 その他(251)[↑68]	6 その他(183)	6 その他(68)
(合計 1,771)	(合計 1,993)	(合計 1,768)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は1,771件であり、11%(222件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
ヘルパンギーナ	183%	インフルエンザ	96%
手足口病	182%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	29%
RSウイルス感染症	78%	咽頭結膜熱	26%
		感染性胃腸炎	25%
		新型コロナウイルス感染症	8%

### 3 コメント

- 7月3日に県内全域で手足口病警報を発令しました。飛沫や手指を介して感染し、便にもウイルスが排出されます。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、トイレの後やおむつ交換の後や、食事の前の手洗いの徹底、換気などの感染予防をお願いします。
- 県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。  
また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合があるため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口に触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。
- RSウイルス感染症やヘルパンギーナが増加傾向であり、注意が必要です。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

- 新型コロナウイルス感染症は、依然として一定数の患者報告が続き、集団感染事例も散発している状況です。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- 梅毒が増加しており、注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。
- 今年度初めて、ダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)が中部地域で確認されています。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年8月26日(月)  
感染症対策センター  
(衛生環境研究所)

## 令和6年第27週から第30週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(27週～30週)4週 (R6.7.1～R6.7.28)	前回(23週～26週)4週 (R6.6.3～R6.6.30)	前々回(19週～22週)4週 (R6.5.6～R6.6.2)
1 新型コロナウイルス感染症 (1,254) [↑939]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (567)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (800)
2 手足口病 (496) [↑358]	2 感染性胃腸炎 (326)	2 感染性胃腸炎 (433)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (423) [↓144]	3 新型コロナウイルス感染症 (315)	3 新型コロナウイルス感染症 (342)
4 感染性胃腸炎 (240) [↓86]	4 R Sウイルス感染症 (174)	4 咽頭結膜熱 (137)
5 R Sウイルス感染症 (216) [↑42]	5 手足口病 (138)	5 R Sウイルス感染症 (98)
6 その他 (284) [↑33]	6 その他 (251)	6 その他 (183)
(合計 2,913)	(合計 1,771)	(合計 1,993)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は2,913件であり、64%(1,142件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
新型コロナウイルス感染症	298%	感染性胃腸炎	26%
手足口病	259%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	25%
ヘルパンギーナ	74%	咽頭結膜熱	22%
R Sウイルス感染症	24%		

### 3 コメント

- ・県内全域に新型コロナウイルス感染症の感染注意情報を発令しています。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ・県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。  
また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合がありますため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口を触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。
- ・7月3日から県内全域に手足口病警報を発令しています。飛沫や手指を介して感染し、便にもウイルスが排出されます。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いの徹底、換気などの感染予防をお願いします。

- R S ウイルス感染症が増加傾向であり、注意が必要です。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- 6月以降、東部地区で小学生から高校生を中心に百日咳が急増しており、注意が必要です。有効な予防法は予防接種ですが、ワクチンの免疫効果は4～12年で弱まってくるといわれており、乳幼児期に接種した方でも感染することがあります。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- 梅毒が増加しており、注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年9月27日(金)  
 感染症対策センター  
 (衛生環境研究所)

## 令和6年第31週から第35週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(31週～35週)5週 (R6.7.29～R6.9.1)	前回(26週～30週)5週 (R6.6.24～R6.7.28)	前々回(21週～25週)5週 (R6.5.20～R6.6.23)
1 新型コロナウイルス感染症 (1,773) [↑435]	1 新型コロナウイルス感染症 (1,338)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (920)
2 手足口病 (466) [↓87]	2 手足口病 (553)	2 感染性胃腸炎 (462)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (465) [↓51]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (516)	3 新型コロナウイルス感染症 (408)
4 感染性胃腸炎 (251) [↓64]	4 感染性胃腸炎 (315)	4 RSウイルス感染症 (195)
5 RSウイルス感染症 (168) [↓94]	5 RSウイルス感染症 (262)	5 咽頭結膜熱 (171)
6 その他 (224) [↓123]	6 その他 (347)	6 その他 (292)
(合計 3,347)	(合計 3,331)	(合計 2,448)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は3,347件であり、16件の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	161%	ヘルパンギーナ	56%
新型コロナウイルス感染症	33%	咽頭結膜熱	47%
		RSウイルス感染症	36%
		感染性胃腸炎	20%
		手足口病	16%
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10%

### 3 コメント

#### 【新型コロナウイルス感染症】

県内全域に発令していた感染注意情報を9月4日に解除しましたが、依然として一定数の患者報告が続き、集団感染事例も散発しています。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。

#### 【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

県内全域に警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合があるため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口を触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。

### 【手足口病】

県内全域に警報を発令しています。飛沫や手指を介して感染し、便にもウイルスが排出されます。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いの徹底、換気などの感染予防をお願いします。

### 【百日咳】

6月以降、東部地区で小学生から高校生を中心に流行が続いており、注意が必要です。有効な予防法は予防接種ですが、ワクチンの免疫効果は4～12年で弱まってくるといわれており、乳幼児期に接種した方でも感染することがあります。咳などの症状がある場合は早めに受診し、手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

### 【ダニ媒介性感染症】

ダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱の感染報告が続いていますので注意しましょう。マダニは春から秋にかけて活発となることから、野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

### 【梅毒】

本年は8月末時点で昨年1年間の29件を超える30件の感染が報告されており、注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年10月30日(水)  
 感染症対策センター  
 (衛生環境研究所)

## 令和6年第36週から第39週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(36週～39週)4週 (R6.9.2～R6.9.29)	前回(32週～35週)4週 (R6.8.5～R6.9.1)	前々回(28週～31週)4週 (R6.7.8～R6.8.4)
1 新型コロナウイルス感染症 (625) [↓704]	1 新型コロナウイルス感染症(1,329)	1 新型コロナウイルス感染症 (1,530)
2 手足口病 (611) [↑272]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(364)	2 手足口病 (496)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(400) [↑36]	3 手足口病 (339)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (405)
4 感染性胃腸炎 (257) [↑67]	4 感染性胃腸炎 (190)	4 RSウイルス感染症 (236)
5 RSウイルス感染症 (84) [↓26]	5 RSウイルス感染症 (110)	5 感染性胃腸炎 (228)
6 その他 (113) [↓60]	6 その他 (173)	6 その他 (242)
(合計 2,090)	(合計 2,505)	(合計 3,137)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は2,090件であり、17%(415件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
手足口病	80%	インフルエンザ	78%
感染性胃腸炎	35%	新型コロナウイルス感染症	53%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10%	RSウイルス感染症	24%
		ヘルパンギーナ	20%

### 3 コメント

#### 【手足口病】

県内全域に警報を発令しています。飛沫や手指を介して感染し、便にもウイルスが排出されます。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いの徹底、換気などの感染予防をお願いします。

#### 【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

県内全域に警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合がありますため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口を触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。

#### 【新型コロナウイルス感染症】

県内全域に発令していた感染注意情報を9月4日に解除しましたが、依然として一定数の患者報告が続く、集団感染事例も散発しています。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。

### 【百日咳】

6月以降、東部地区で小学生から高校生を中心に流行が続いており、注意が必要です。有効な予防法は予防接種ですが、ワクチンの免疫効果は4～12年で弱まってくるといわれており、乳幼児期に接種した方でも感染することがあります。咳などの症状がある場合は早めに受診し、手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

### 【マイコプラズマ肺炎】

全国的に感染者数が増加しています。本県は全国と比較すると低い水準ですが、増加傾向となっています。手洗い、咳エチケット及びタオルの共用を避けるなどの感染予防をお願いします。

### 【ダニ媒介感染症】

ダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱の感染報告が続いていますので注意しましょう。マダニは春から秋にかけて活発となることから、野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

### 【梅毒】

本年は9月末時点で昨年1年間の29件を超える32件の感染が報告されており、注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年12月10日(火)  
感染症対策センター  
(衛生環境研究所)

## 令和6年第40週から第44週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(40週～44週)5週 (R6.9.30～R6.11.3)	前回(35週～39週)5週 (R6.8.26～R6.9.29)	前々回(30週～34週)5週 (R6.7.22～R6.8.25)
1 手足口病 (663) [↓ 50]	1 新型コロナウイルス感染症 (833)	1 新型コロナウイルス感染症 (1,980)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (420) [↓ 100]	2 手足口病 (713)	2 手足口病 (503)
3 感染性胃腸炎 (346) [↑ 28]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (520)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (448)
4 新型コロナウイルス感染症 (291) [↓ 542]	4 感染性胃腸炎 (318)	4 感染性胃腸炎 (251)
5 インフルエンザ (68) [↑ 43]	5 R S ウイルス感染症 (118)	5 R S ウイルス感染症 (183)
6 その他 (141) [↓ 22]	6 その他 (163)	6 その他 (233)
(合計 1,929)	(合計 2,665)	(合計 3,598)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は1,929件であり、28%(736件)の減となった。

増加した疾病	減少した疾病
インフルエンザ 172%	ヘルパンギーナ 83%
咽頭結膜熱 13%	R S ウイルス感染症 75%
感染性胃腸炎 9%	新型コロナウイルス感染症 65%
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 19%
	手足口病 7%

### 3 コメント

#### 【インフルエンザ】

全国と同様に県内でも流行期入りしました。場面に応じたマスクの着用や換気、手洗い、手指消毒などの感染対策をお願いします。ワクチンは主に重症化予防に効果がありますので、希望される方は早めの接種を検討しましょう。

#### 【マイコプラズマ肺炎】

全国的に感染者数が増加しており、本県においても10月以降増加しています。手洗い、咳エチケット及びタオルの共用を避けるなどの感染予防をお願いします。

#### 【百日咳】

6月以降、東部地区で小学生から高校生を中心に流行が続いており、10月に100人を超える患者報告がありました。長く続く咳が特徴で、感染力が非常に強いため、注意が必要です。

有効な予防法は予防接種であり、乳幼児期に定期接種を受けることが重要ですが、ワクチンの免疫効果は4～12年で弱まってくるといわれており、接種済みの方でも感染することがあります。ワクチン未接種の新生児や早期乳児が感染すると重症化しやすいため、赤ちゃんや妊産婦のおられるご家

庭では、周囲の家族などが感染源とならないよう特に注意してください。咳などの症状がある場合は早めに受診し、手洗い、マスクの着用、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

### 【手足口病】

県内全域に警報を発令しています。飛沫や手指を介して感染し、便にもウイルスが排出されます。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いの徹底、換気などの感染予防をお願いします。

### 【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

県内全域に警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合がありますため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口を触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。

### 【ダニ媒介感染症】

ダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱の感染報告が続いていますので注意しましょう。マダニは春から秋にかけて活発となることから、野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

### 【梅毒】

本年は10月末時点で過去最多であった令和2年の32件を上回る37件の感染が報告されており、注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年12月17日(火)  
感染症対策センター  
(衛生環境研究所)

## 令和6年第45週から第48週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(45週～48週)4週 (R6.11.4～R6.12.1)	前回(41週～44週)4週 (R6.10.7～R6.11.3)	前々回(37週～40週)4週 (R6.9.9～R6.10.6)
1 インフルエンザ (427) [↑362]	1 手足口病 (510)	1 手足口病 (625)
2 感染性胃腸炎 (359) [↑69]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (319)	2 新型コロナウイルス感染症 (517)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (292) [↓27]	3 感染性胃腸炎 (290)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (403)
4 手足口病 (169) [↓341]	4 新型コロナウイルス感染症 (182)	4 感染性胃腸炎 (242)
5 新型コロナウイルス感染症 (163) [↓19]	5 インフルエンザ (65)	5 RSウイルス感染症 (64)
6 その他 (136) [↑33]	6 その他 (103)	6 その他 (103)
(合計 1,546)	(合計 1,469)	(合計 1,954)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は1,546件であり、5%(77件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	557%	手足口病	67%
マイコプラズマ肺炎	175%	咽頭結膜熱	40%
伝染性紅斑	173%	新型コロナウイルス感染症	10%
感染性胃腸炎	24%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8%

### 3 コメント

#### 【伝染性紅斑】

12月11日に県内全域で警報を発令しました。飛沫や手指を介して感染し、原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。特に、妊娠中に感染した場合、胎児へ影響する可能性があるため、注意が必要です。

#### 【インフルエンザ】

11月上旬に流行期入りし、増加傾向が続いています。場面に応じたマスクの着用や換気、手洗い、手指消毒などの感染対策をお願いします。ワクチンは主に重症化予防に効果がありますので、希望される方は早めの接種を検討しましょう。

#### 【マイコプラズマ肺炎】

全国的に感染者数が増加しており、本県においても10月以降増加しています。手洗い、咳エチケット及びタオルの共用を避けるなどの感染予防をお願いします。

#### 【百日咳】

6月以降、特に東部地区で小学生から高校生を中心に流行が続いており、11月以降は西部地区でも増加傾向です。長く続く咳が特徴で、感染力が非常に強いいため、注意が必要です。有効な予防法は予防接種であり、乳幼児期に定期接種を受けることが重要ですが、ワクチンの免疫効果は4～12年

で弱まってくるといわれており、接種済みの方でも感染することがあります。ワクチン未接種の新生児や早期乳児が感染すると重症化しやすいため、赤ちゃんや妊産婦のおられるご家庭では、周囲の家族などが感染源とならないよう特に注意してください。咳などの症状がある場合は早めに受診し、手洗い、マスクの着用、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

#### 【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

県内全域に警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合がありますため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口を触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。

#### 【手足口病】

12月11日に警報は解除となりましたが、感染者の報告が続いています。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、引き続きトイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いの徹底、換気などの感染予防をお願いします。

#### 【梅毒】

本年は11月末時点で過去最多であった令和2年の32件を上回る39件の感染が報告されており、注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和7年1月23日(木)  
感染症対策センター  
(衛生環境研究所)

## 令和6年第49週から第52週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(49週～52週)4週 (R6.12.2～R6.12.29)	前回(45週～48週)4週 (R6.11.4～R6.12.1)	前々回(41週～44週)4週 (R6.10.7～R6.11.3)
1 インフルエンザ (3,112) [↑2,685]	1 インフルエンザ (427)	1 手足口病 (510)
2 感染性胃腸炎 (459) [↑100]	2 感染性胃腸炎 (359)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (319)
3 新型コロナウイルス感染症 (444) [↑281]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (292)	3 感染性胃腸炎 (290)
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (254) [↓38]	4 手足口病 (169)	4 新型コロナウイルス感染症 (182)
5 伝染性紅斑 (62) [↑32]	5 新型コロナウイルス感染症 (163)	5 インフルエンザ (65)
6 その他 (149) [↑13]	6 その他 (136)	6 その他 (103)
(合計 4,480)	(合計 1,546)	(合計 1,469)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は4,480件であり、190%(2,934件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	629%	手足口病	78%
新型コロナウイルス感染症	172%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13%
伝染性紅斑	107%	マイコプラズマ肺炎	5%
感染性胃腸炎	28%		

### 3 コメント

#### 【インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症】

インフルエンザについては、1月7日に県内全域に警報を発令しました。流行が拡大していますので注意が必要です。

新型コロナウイルス感染症は12月頃から増加傾向であり、集団感染事例も散発しています。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。

#### 【伝染性紅斑】

12月11日から県内全域に警報を発令しています。飛沫や手指を介して感染し、原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。特に、妊娠中に感染した場合、胎児へ影響する可能性があるため、注意が必要です。

#### 【マイコプラズマ肺炎】

全国的に感染者数が増加しており、本県においても10月以降増加しています。手洗い、咳エチケット及びタオルの共用を避けるなどの感染予防をお願いします。

### 【百日咳】

小学生から高校生を中心に流行が続いています。長く続く咳が特徴で、感染力が非常に強いため、注意が必要です。有効な予防法は予防接種であり、乳幼児期に定期接種を受けることが重要ですが、ワクチンの免疫効果は4～12年で弱まってくるといわれており、接種済みの方でも感染することがあります。ワクチン未接種の新生児や早期乳児が感染すると重症化しやすいため、赤ちゃんや妊産婦のおられるご家庭では、周囲の家族などが感染源とならないよう特に注意してください。咳などの症状がある場合は早めに受診し、手洗い、マスクの着用、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

### 【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

県内全域に警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合がありますため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口を触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。

### 【梅毒】

令和6年は、過去最多となる41件の感染が報告されており、引き続き注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。